

◎ 学年別観点

審査に当たっては、以下に基づいて作品の選出をします。

<編集方針の(1)~(3) (※3頁) >

- (1) 子どもにとって楽しい読み物であり、豊かに生きていく糧となるものにする。
- (2) 学年の発達段階に応じ、文種別に編集し、「書くこと」の参考資料となるようにする。
- (3) 県内から広く作文を募集し、各地区単位の選考をし、優れた作品で構成する。

なお、上記の「(2)」については、以下を御参照ください（「学習指導要領解説国語編」より）。

（低学年）

- 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序にそって簡単な構成を考えている。
- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。

（中学年）

- 各内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。

（高学年）

- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

◎ 作品のジャンル

(低学年)	①手紙文	②紹介文	③記録・報告文	④詩	⑤生活文	⑥読書感想文
(中学年)	①手紙文	②紹介文	③報告文	④詩	⑤生活文	⑥読書感想文
(高学年)	×	②紹介文	③意見文	④短歌・俳句・詩	⑤生活文	⑥読書感想文

※ 発達の段階を考慮し、募集内容を変更しております。

◎ 各ジャンルの概要・ポイント

(参照：令和4年度県児童文集「ともだち」全学年合本)

① 手紙文

- 知らせたいことがよく分かるように順序を決めて書く。
- 手紙は、読んでもらう相手ははっきりしているため、読む人のことをよく考えて書く。
- 読んでもらう人に自分の知らせたいことがよく伝わるように次のことを落とさずに書く。

- ・ 「どこの」「だれに」「どんなことを」
- ・ 「どうしてもらいたいか」をはっきりと書く。

※ 手紙とは、特定の相手に対し、用件や気持ちなどを文章で伝えるものである。相手を明確に意識できるため、児童自らが推敲する必要性を実感して書くことができる（小学校学習指導要領解説国語編より）。

② 紹介文

- 自分たちが通っている学校のことや、住んでいる市町村のこと等を書いた作文。

※ 紹介とは、聞き手が知らないことや知りたいと思っていることを伝えることである（小学校学習指導要領解説国語編より）。

③—1 記録文

- 見たとおり、調べたとおりに書く。
 - ・ 不思議に思ったことや、考え付いたこと等を書く。
 - ・ 数字を使ったり、似ているものに例えたりして、分かりやすく書く。
 - ・ 時間やしたことの順序に気を付けて書く。
- 分かったり、気付いたりするために、よくものを見る。
 - ・ 色・形・大きさ等を、詳しく見る。
 - ・ 手で触ったり、ものを使ったりして調べてみる。
 - ・ 始めの様子やほかのものと比べてみる。

※ 記録とは、事実や事柄、経験したことや見聞きたこと等について、メモを取ったり、文章として正確に書き残したりすることである（小学校学習指導要領解説国語編より）。

③—2 報告文

- 自分で調べてみたい、観察してみたいと思うことを「めあて」として書き始める。
 - ・ めあてに沿って、いつ・どこで・何を・どうした・どうなったかを書く。
 - ・ 例えや会話を使ったり、段落や組み立てに気を付けたりして書く。

※ 報告は、見たことや聞いたと等の事実や出来事を伝えることである（小学校学習指導要領解説国語編より）。

③—3 意見文

- 伝えたいことを明確にしよう。
- どの資料を基に、どう考えたか、事実と意見を明確にして書く。
- 具体的な数値を挙げるなど、説得力をもたせる工夫をする。
- 自分の考えや主張が、はっきりと読み手に伝わるような論の組み立てを考える。

④—1 詩

- 「うわあ」と思ったことを短い言葉で書く。
- 「すごいなあ。」「ふしぎだなあ。」など、思ったことを書く。
- 「目」で、「耳」で、「手」で、「鼻」で、書こうとするものを捉えて書く。
- 自分のすてきな言葉で書く。

※ 詩をつくる際には、凝縮した表現であること、普通の文章とは違った改行形式や連による構成になっていること等の基本的な特徴を踏まえて、感じたことや想像したことを書くこととなる（小学校学習指導要領解説国語編より）。

④—2 短歌・俳句

- 感動を伝えるために次のことに気を付けて書く。
 - ・ 書きたい気持ちをはっきりさせる。
 - ・ 言葉を確かめながら選ぶ
 - ・ 組み立てを工夫する。
 - ・ 最後にもう一度気持ちを確かめ、一番ぴったりの表現に直してみる。

⑤ 生活文

- したことやあったことを順序よく書く。そのために、次のことを思い出す。
 - ・ いつ ・ だれが、なにが ・ どこで ・ どうした
- 楽しかったこと、悲しかったこと、頑張ったこと等を書く。

⑥ 読書感想文

- 強く心を動かされたことを、自分の経験と照らし合わせて読書感想文を書くこと。